

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「粘り強く 学び合う 認め合う 平戸の子」
 ○自分の考えや学んだことを活かし、意欲的に学び続ける力を育てます。(知)
 ○規範意識や礼儀を大切に、自分や相手のよさに気づき認め合う力を育てます。(徳)
 ○健康な体づくりを通して心と体の健康に関心をもち、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体)
 ○学校や平戸のまちに親しみ、まちの一員として主体的に関わる力を育てます。(公)
 ○様々な人とのコミュニケーションを通して広い視野をもち、共に生きていく力を育てます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

資質・能力	具体化した資質・能力
<自ら学び続ける力> <学んだことや体験を活用する力> <人とのつながりを大切に学び合う力>	能動的・主体的に取り組む力 課題を見いだす力 試行錯誤する力 粘り強く取り組む力 多面的な視点で考える力

中期取組目標

○子どもの自己有用感の育成と、まちとともに歩む学校づくりを目指します。
 ・学んだことを活かして自ら問題を見つけ、よりよく解決していこうとする力を育てます。
 ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮し、互いを尊重し認め合おうとする力を育てます。
 ・あいさつなど、相手意識をもった行動の取れる態度を育てます。
 ・教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。
 ・学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校づくりを目指します。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①あいさつするよさに気づき、自らすすんであいさつできる習慣が身に付くよう、総合的な学習の時間や生活科、ふるさと平戸などを通して、地域の人と主体的に関わろうとする心を育てる。 ②ペア学年等の縦割り活動を通して異学年同士のつながりを築き、自他を大切にできる心情を育てる。

豊かな心に関わる本校の状況

学校評価アンケート
 記述アンケートの主な内容【児童】
 ○学習でがんばっていること
 勉強に一生懸命取り組むこと／話を聞くこと／友達と助け合いながら学習を進めること／粘り強く取り組むこと
 ○休み時間や給食、掃除などでがんばっていること
 体を動かす／係や委員会活動に積極的に取り組む／掃除当番を一生懸命行う／学校のきまりを守る
 ○地域の人たちに助けてもらっていること
 登下校時などの見守り活動／読み聞かせ／交通安全／温かい声掛け
 ○平戸小学校のみんなが、もっとがんばった方がよいこと
 自分から挨拶をする／時間を守る／廊下の歩き方や教室での過ごし方／授業と休み時間のメリハリをつける／話を聞く
 ○平戸の地域についてもっと学びたいことや、地域の人と一緒に取り組みたいこと
 地域の行事に参加／歴史と特色(梨づくりなど)／ふるさと平戸を通しての昔遊び／環境や自然を守る活動
 記述アンケートの主な内容【保護者】
 ○平戸小学校の子どもたちに、今よりも一層、身に付けてほしい力
 自分から挨拶／自主性／積極性／思いやり／責任感／感謝／他者理解
 ○平戸の町に住んでいるからこそ学んでほしいこと
 郷土愛、特色(梨、農園、自然)／歴史(旧東海道・東戸塚駅開発 など)／地域行事、地域の方とのふれ合い／交通ルール／助け合い

今年度の目標

・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮し、互いを尊重し認め合おうとする力を育てます。
 ・あいさつなど、相手意識をもった行動の取れる態度を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

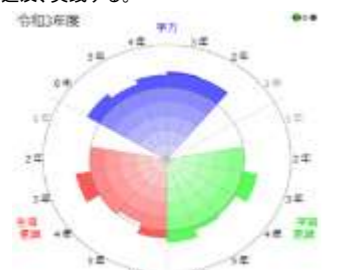
時期	具体的行動プラン
上半期	○「特別の教科 道徳」の充実 ・道徳科の授業と教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。 ・道徳科の授業を家庭・地域に年に1回以上公開する。 ○ペア学年を中心とした縦割り活動の充実 ・「児童会活動」「クラブ活動」「縦割り集会」「ペア集会」などの「異年齢集団活動」を、より自主的、意欲的に行うようにする。 ○Y-Pアセスメントを活用した支援検討会を実施し、個々の子どもの課題の早期発見と、「自分・仲間・集団づくり」に活かす。(年2回)
下半期	○地域の方との交流の充実 ・伝統的な行事である「ふるさと平戸」の実施 ・活動のねらいと実施方法を工夫しながら、地域の方との触れ合いを通して、その思いや地域のよさに気づくことができるようにする。 ○主体性をもった総合的な学習の時間や生活科の取組 ・まちや地域の方とかわる機会を生かし、主体性をもって学習発表会に向けた取組ができるようにする。 ○学校評価アンケートの活用 ・学校行事後に、参観した学校での児童の様子や、家庭・地域での様子についてアンケートを実施する。子どもの実態を把握し、日々の学校生活に生かす。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学習課題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を粘り強く追究・解決できるよう授業改善に取り組む。 ②個に応じた支援を展開するために4年生以上での教科担当制や算数科少人数指導を行う。 ③学校図書館やICT機器の活用指導等により、読解力・情報活用能力の育成を図る。

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 令和3年度の学力・学習状況調査の結果においては、教科全般に対する理解度、習熟度は高いといえる。継続して、習熟度別指導や教科担任制を行った結果がうかがわれる。昨年度まで、密を避けるための対策等により、学習活動への制限が大きかった教科もあるため、状況改善を踏まえた取り組みの工夫が必要である。意欲を高められるような活動を模索し、今年度も、身近な教材から誰もが分かりやすい学習を継続して追及、実践する。



4年間、重点研究を行ってきた外国語・外国語活動で培ってきたコミュニケーション力を礎に、今年度から「算数科」に重点化して、課題解決に向けた意欲の向上、表現力の伸長を図っていききたい。

今年度の目標

学んだことを活かして自ら問題を見つけ、よりよく解決していこうとする力を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

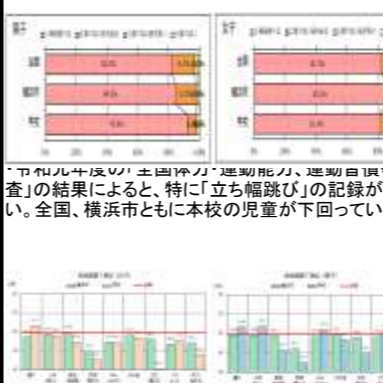
時期	具体的行動プラン
上半期	○授業力向上を図るための1学級1授業提案 問題発見・解決の過程を重視し、今まで培ってきたコミュニケーション能力を活用しながら、自らの考えを伝えることができる算数科を重点的に取り組む教科として設定し、研究を進めていく。研究1年目であることも考慮し、今年度の研究テーマを「できた！わかった！もっとやりたい！」すすんで伝え合う子どもの育成」と位置付けて、算数において、自分の意見を伝え合ったり粘り強く取り組んだりできるようにする。 ○学習課題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を追及・解決できるよう授業改善に取り組む。より多面的かつ個に応じた支援を展開するために4年生以上での教科担任制や算数科少人数指導を行う。 ○朝読書の推進、学校図書館の活用指導等により読解力・情報活用能力の育成を図る。 ○自分の考えや思いを、分かりやすく相手に伝える。色々な考え方を共有する機会を設け、友達の考えの良さにふれる。 ○話し合いの中から、すすんで表現するだけでなく、互いの意見を受け止め、対話ができるようにする。
下半期	○学んできたことを生かし、日常の中で取り入れながら学習を進める。 ○振り返りを習慣化し、問題解決の過程から次の課題を見出せるよう、活動展開を工夫する。 ○自他の考えの相違点や共通点を見つけ、目的に合ったよりよい考え方を見つけ、質の高まった活動をつくりあげることの楽しさを味わえるようにする。 ○振り返った内容から次の活動を考えていくような機会を設ける。 ○小学校生活で身に付けた書く力や読む力、話す・聞く力などを総合的に生かすことを意識して、表現活動を広げる場面を位置付ける。 ○自分の考えを構築し、伝え合うことで、より考えが深まっていくような授業展開を工夫する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体力向上を図るため、外遊びや新平戸体操などの体力を高める活動の定着と推進を図る。 ②保健目標や学校保健委員会の取り組みを通して、体力向上への意識を高める。 ③バランスイーナワークや中学校との連携を核として、食育の推進を図る。

健やかな体に関わる本校の状況

・朝食を毎日食べる児童のポイントが市の平均に比べて高く、男児は全国の平均を上回っている。休業期間中の「早ね・早起き・元気カード」や月1回の「バランスイーナワーク」の食育の取り組みの効果が表れている。



「令和3年度の子どもの体力」運動能力、運動自覚度調査の結果によると、特に「立ち幅跳び」の記録が低い。全国、横浜市ともに本校の児童が下回っている。

「毎週至校(1)平戸体操」に取り組む、自覚しやすくなる。

・休み時間に運動している児童が多いが、学年が上がるとつれ、減少傾向にある。
 ・近年の体力低下や、運動量の減少により、運動時のけがが多くなっている。特に器械運動でのけがが目立つ。

今年度の目標

学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、心身の健やかな成長を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

時期	具体的行動プラン
上半期	○平戸体操・平びよん・休み時間の外遊びの日常化を通じた体力向上、食教育授業を中心とした食育の充実を推進する。 毎週水曜日の朝や体育の学習の中で平戸体操を行ったり、運動委員会の取り組みや声かけで休み時間の外遊びを促す。 ○早寝・早起き実践を通して、健康でたくましい体を育成する。 休業期間中の「早ね・早起き・元気カード」に取り組み、自分の生活習慣を記録し、振り返ること、生活リズムの見直しを図る。 ○短縄運動を年間を通して推進し、短縄集会所を設けることで体力向上の目標とする。 体育の学習や休み時間などに短縄に取り組んだり、短縄集会所や記録会に向けて取り組むことで体力の工場を図る。 ○年2回の学校保健委員会を通じ、体力向上のための動きをご指導していただき、日常運動に生かす。 第1回の学校保健委員会では、運動をすすと良いことや、体力が向上すると良いことについて知り、「跳ぶ力」や「投げる力」を集約的に高めることで体力向上を図る。
下半期	○平戸体操・平びよん・休み時間の外遊びの日常化を通じた体力向上、食教育授業を中心とした食育の充実を推進する。 毎週水曜日の朝や体育の学習の中で平戸体操を継続的にしたり、運動委員会の取り組みや声かけで休み時間の外遊びをさらに促す。 ○早寝・早起き実践を通して、健康でたくましい体を育成する。 休業期間中の「早ね・早起き・元気カード」に取り組み、自分の生活習慣を記録し、振り返ること、生活リズムの見直し、さらなる健康づくりを図る。 ○短縄運動を年間を通して推進し、短縄集会所を設けることで体力向上の目標とする。 短縄記録会を年に数回行うことで、よりよい記録に向けて取り組むことで体力の向上を図る。 ○年2回の学校保健委員会を通じ、体力向上のための動きをご指導していただき、日常運動に生かす。 第2回の学校保健委員会では、個人の「跳ぶ力」と「投げる力」の記録をふり返ったり、クラスの「体力アップ目標」についてふり返ったりして、さらに体力向上への意欲を高める。